

Museum Talk 2023 ミュージアムトーク

ハンセン病問題にまつわる様々なお話をご用意しました。
ふだん聞く機会の少ないテーマにふれてみませんか。
資料館からミュージアムトークをお届けします。

会場参加
と Zoom
ライブ

2023.6.3 sat. 14:00-

趙根在が写した「その人」の物語を読む

西浦直子

(当館事業部社会啓発課長、学芸員)

趙根在(チョウ・グンジエ 1933-1997)は在日朝鮮人二世の写真家。1961年から全国のハンセン病療養所を回り、20年間に約2万枚を撮影しました。今回のトークでは、趙が集団としての入所者でなく一人ひとりの存在に迫ろうとした点に注目し、その写真やテキストを読みときます。

会場参加
と Zoom
ライブ

2023.9.30 sat. 14:00-

らい予防法闘争70年(仮)

1952年10月~1953年8月まで、全患協(現在の全国ハンセン病療養所入所者協議会)は「らい予防法闘争」を開きました。人権を求めて激しい運動を行いましたが、患者・回復者の人権を侵害する法律が制定されました。ちょうど70年にあたるこの機会に、「らい予防法闘争」について考えたいと思います。

田代 学

(当館事業部事業課、学芸員)

会場参加
と Zoom
ライブ

2023.冬

在日朝鮮人入所者と文学

日本のハンセン病療養所にはかつて、多くの在日朝鮮人入所者たちが暮らしていました。彼ら、彼女らは詩や短歌、小説などに日本語で自身の思いを残しています。今回はそれらの作品を味わいながら、そこに込められた思いや背景について読みといていきたいと思います。

金 貴粉

(当館事業部社会啓発課、主任学芸員)

会場参加
と Zoom
ライブ

2024.春

絵ごころでつながる
—多磨全生園絵画の100年

1923年10月、第一区府県立全生病院(現・多磨全生園)の礼拝堂で行われた「第壱回絵画会」は、同病院の設立以来始めての、患者による絵画が展覧された機会となりました。今回は、この催しに始まる多磨全生園における絵画活動の100年—その黎明期、戦中から戦後及び、近年にまで至る動きを辿り、隔離政策下のなか、やがて園の内外へと展開した文化運動としての絵画についてお話しします。

吉國 元

(当館事業部事業課、学芸員)

国立ハンセン病資料館

〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13

TEL 042-396-2909

FAX 042-396-2981

URL <https://www.nhdm.jp/>



開催方法 会場参加(定員20名)／Zoomウェビナーによる配信(定員100名)／(ハイブリッド)
当館公式Webサイトよりお申込みください(先着順)
※事情により日程・講師・演題などを変更することがあります
詳細は当館Webサイトをご覧ください